

[掲載紙] 上毛新聞「点描ぐんま経済 日銀支店長 見聞録」

[掲載日] 2016年6月24日

[テーマ] ぐんま昆虫の森—好奇心くすぐる夢の国—

「昔はあんなに好きだったのに、今となっては…」。思わせぶりの書き出しで申し訳ないが、虫のことである。

子どもの頃、空き地でバッタを追いかけて捕まえるのが大好きであった。夏には、夜に明かりを求めてきて飛んできたカブトムシやクワガタを捕まえて、スイカや砂糖水を与えたものである。秋には、縁日で鈴虫の入ったかごを親にねだり、一晩中鳴き声に耳を傾けていた。

ところがいつの間にか、虫嫌い人口の一員となってしまっている。高気密住宅に住み、虫に触れる機会がない中で、たまに遭遇すると、生活の安寧を脅かされたような気になってしまう。妻となると、私以上に虫嫌いだ。

どうして、大人になると虫が嫌いになってしまうのか。一説によると、人間はもともと、自分に近いものには親近感を覚え、そうでないものには嫌悪感を覚えるように本能が備わっているからのようだ。

それではなぜ、子どもは虫に興味を持つのか。諸説あるが、子どもには本能を上回る「知的好奇心」が備わっているらしい。

そうであるとする、虫嫌いを認めることは、年を重ねて知的好奇心がすっかり衰えてしまったと受け入れることに他ならない。それではいけないと、妻が次男を連れて終日外出することになった週末、長男を連れて桐生市新里町にある「ぐんま昆虫の森」を訪れることにした。

正直言うと、魍魎ちみもうりょうの世界を想像したりして、恐る恐るであった。しかし、行ってみると、建築家の安藤忠雄氏が手掛けた建物の中ではたくさんのチョウが舞っており、まるで夢の国に来たようだ。その周囲は、雑木林を中心に田んぼや畑・小川など里山の環境が再現され、美しい光景。昆虫図鑑を片手に息子と2人で時間を忘れて楽しんだ。

外出から戻ってきた妻にこの話をすると、一度行ってみたいと言うので、ホテル観賞会の日家族全員で再訪した。初夏の夜を彩る無数の美しい緑色の光に感激したことは言うまでもない。

「昆虫の」という名称で、行くのをためらっている方、思い切って出かけてみませんか。
知的好奇心は衰えていないと自信を持つことができますよ。

あなたは虫が苦手ですか？

はい	63.1%
いいえ	36.9%

(注) インターネットアンケート調査。2012年6月実施。

(出所) マイナビニュース

〔 日本銀行前橋支店長
 神山 一成 〕